

「茶道を学んで」

2年 ICA 女子

茶道を2年間、授業として学んだ事は自分にとってとても良い経験になりました。本格的な茶道をしたのは高校に入ってから初めてでした。最初は正座にもなかなか慣れずに、お点前も覚えられませんでした。でも2週間に1度の茶道をやっていくうちに正座にも少しずつ慣れ、お点前もまだまだぎこちないですが少しは頭に入ってくるようになりました。お点前は本当に自分にとって難しかったのですが、授業でその難しくて複雑な動作の一つ一つにしっかり意味があり、一つの動作に色々な事が込められてることを学びました。茶道は人の心を清らかにする力をもっているのではないかと感じました。自分自身、茶道をやっていると心がすごく落ち着きます。なぜなら茶道のお点前をするには心が乱れていてはうまくお点前を進められないからです。そういった意味でも茶道は人の心を表現することを学びました。茶道といえば伝統的な日本の文化です。茶道を通して日本の伝統的な文化のあり方というものも学べたと思います。伝統的な文化だからこそ、一つ一つがすごく深く、どの動作にも奥がある、それを時代が変わってしまった今でも受け継がれ続けているというのはすごい事だと感じました。何もかもが便利になりすぎてしまった今、私たちは心を落ち着けて、またゆっくりと時間をかけて、茶道のような事をするというのはありません。時代が流れてしまった今でも茶道が日本の伝統文化としてあり続けるという事の裏にどんな事が隠されているのかということもこの2年間で学びました。茶道の深い歴史や歴史を象徴する物、それを守り続ける人々の支え、また茶道を日本の伝統文化として伝え続ける人々の頑張りなどをこの2年間、肌で感じました。茶道は人の心を清らかにし、やっていくうちに乱れを落ち着きに変えるととても奥ゆかしいものだと感じました。茶道はこれから時代がどんどん流れていくうえで、決して消えてはいけない日本の伝統文化だと2週間に1度の茶道を通して学びました。茶道は日本人の心を作りあげてくれる素晴らしい文化だと思います。

2年 ICB 女子

私は茶道を二年間学んで、少し日本の文化を知れたと思います。小学六年生の時、初めて茶道を体験し、高校で一から先生に教えていただき、いろいろな作法があり難しいものでしたがとても楽しかったです。

一年の時は足がしびれて立てなかつたりしたけど、二年生になったときからもう足もしびれなくなりました。

お花で季節を知ることでもでき、茶道には茶道のお花の生け方もありおもしろいと思いました。また、お菓子も季節ごとに違って、一週間違うだけでお菓子の色も変わるので驚きました。初めの頃はお菓子の名前も分からなかったのに、今ではみんなで何か言い合ったりもできるようになりました。

最近では、ほとんど自分でお点前もできるようになり、家でも家族にお茶を点てることもできました。

私はこの茶道の授業を通して、心を静かにできるようになったり、器を見るくせがついたり、きれいなものを見て素直にきれいと言えるようになりました。他にも学んだことはいっぱいあります。三年生になったら茶道の授業はないのですが、これからも続けていこうと思います。そして、大人になったら子どもたちにも茶道を教えたいと思います。それに、外国にもない唯一の誇れることの一つなので外国の方々にも広め、もっと日本の良い文化を知ってもらいたいです。

最後に、茶道を教えていただいた先生方、二年間ありがとうございました。またどこかでお会いできることを楽しみにしています。